

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：平成 2006～2008 年度  
 課題番号：18530740  
 研究課題名（和文） 英、米、中、韓との比較を通じた我が国の美術教育のカリキュラムに関する研究  
 研究課題名（英文） Curriculum research of the art education through the translation of the Japanese course of study into English, Chinese, and Korea  
 研究代表者  
 奥村高明（OKUMURA TAKAAKI）  
 国立教育政策研究所・教育課程研究センター研究開発部・教育課程調査官  
 研究者番号：80413904

## 研究成果の概要：

我が国及び諸外国の美術教育に関する教育課程に関する諸資料を収集・整理するとともに、それぞれの特徴を比較し、その違いなどについて明らかにした。また、わが国の学習指導要領を英語、中国語、韓国語に翻訳し、国際学会において提示し、我が国の美術教育の構造について多くの意見を収集することを通して、我が国の美術教育に関する概念や教育課程の構造の特徴を相対的にとらえた。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	600,000	0	600,000
2007年度	2,200,000	0	2,200,000
2008年度	700,000	9,000	709,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	9,000	3,509,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：各教科の教育，国際比較

## 1. 研究開始当初の背景

平成 13 年に中央教育審議会に教育課程部会が常設の部会として設置され、それ以降、学習指導要領の不断の見直しが行われており、学習指導要領の改善は継続的な課題となっている。このような中で、様々な観点から学習指導要領に相当する諸外国の教育課程と我が国のものとの比較、検討すること

が求められているが、美術教育については、我が国と諸外国の教育課程を詳細に比較、検討した研究は近年見当たらない。また、国際的な視点で我が国の美術教育の教育課程をとらえた場合、諸外国のものとは子どもが主体的な活動を特に重視しており、諸外国からも注目されている一方で、子どもの多様で柔軟な活動を重視しているために教育課程の構造に不明確さがあるとい

うことはしばしば指摘されてきた。そのため、構造的に整理された諸外国の教育課程を我が国のものと比較、検討することによって、今後の美術教育のあり方を探るための手がかりを得ることが美術教育の研究において求められていた。

## 2. 研究の目的

本研究課題では、構造的に整理された諸外国の教育課程を我が国のものと比較、検討することによって、今後の美術教育のあり方を探るための手がかりを得ることを目指すこととした。比較、検討する対象は、構造的に整理されているとされるイギリスやアメリカ合衆国などの欧米の教育課程、及び、それまで欧米的であったが我が国の子どもの活動を重視する教育課程の影響を強く受けたとされる中国や韓国などの東アジアの教育課程とする。これらについて調査し、詳細に比較、検討することによって、我が国の教育課程の子どもの主体的な活動を重視する姿勢を保ちつつ、教育課程の構造をより明確にするための方策の提示を試みるものである。

## 3. 研究の方法

以下の具体的な課題を設定し、研究に取り組んだ。

- (1) イギリス、アメリカ合衆国、中国、韓国の教育課程を日本語に翻訳する。それをもとに我が国のものも含め、それぞれの国の教育課程を構成する「目的」「内容」「方法」「評価」の概念定義とその相互関係のあり方を整理し、比較・検討する。また、その背後にある美術教育の考え方等についても現地で最新の資料を収集す

るなどして調査し、我が国のものと比較、検討する。

- (2) 我が国の現行の学習指導要領及び新たに改訂される学習指導要領を英語、中国語、韓国語に翻訳する。これを用いて諸外国の美術教育関係者から我が国の美術教育の学習指導要領についての意見をインタビュー調査によって収集する。収集する意見は、我が国の子どもの活動を重視する美術教育のあり方や教育課程の構造等についてであり、これをもとに我が国の教育課程の独自性を浮かび上がらせる。
- (3) 昭和 22 年以降の図画工作、美術、芸術(美術、工芸)の学習指導要領及び児童・生徒指導要録のデータベースを作成することによって、我が国の教育課程の変遷を整理する。
- (4) 諸外国の美術教育の実情を把握するために現地調査を行う。教育実践の場で教育課程がどのように実現されているのかインタビュー調査や授業参観を行い、教育課程の実施状況を把握する。
- (5) 上記の(1)~(5)の結果を整理し、我が国の教育課程の構造及び内容の独自性を明らかにする。そこから今後の美術教育の在り方についてどのような方向性が見えるのか考察し、その結果を研究成果報告書にまとめる。

## 4. 研究成果

研究成果物としては、以下のものがある。

(1) 研究成果報告書

イギリス、アメリカ合衆国、中国、韓国の教育課程を構成する「目標」「内容」「方法」「評価」といった諸要素の概念とその相互関係を明らかにした。これと同時に我が国のものと比較・検討し、我が国の教育課程の特徴を相対的に浮かび上がらせた。なお、この研究成果報告書については、現在、最終的な取りまとめの作業を行っている。

(2) 研究成果資料（リーフレット）

2008 年度に改訂された学習指導要領を英語、中国語、及び韓国語に翻訳し、リーフレットを作成した。リーフレット作成に当たっては、上記(1)の作業と並行して、我が国の学習指導要領に示された様々な用語の概念整理を行った。なお、このリーフレットは、2008 年の国際美術教育学会世界大会（InSEA）大阪大会において我が国及び諸外国の美術教育研究者及び関係者に配布され、好評を得るとともに、我が国の学習指導要領のあり方について様々な意見等が寄せられた。

(3) 我が国の教育課程に関するデータベース

昭和 22 年以降の図画工作、美術、芸術（美術、工芸）の学習指導要領及び児童・生徒指導要録を収集し、用語を検索できる簡便なデータベースを作成した。なお、このデータベースは教育課程を構成する「目標」「内容」「方法」「評価」といった諸要素の概念とその相互関係を明らかにするために作成したものであり、公表はしていない。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

(1) 奥村高明, 「造形活動における相互行為分析の視座—授業研究・指導法改善の方法論（1）」, 『日本美術教育研究論集Vol.42』（査読有）, pp.9-16, 2009

(2) 千凡晋, 「日本と韓国における『学習指導要領』の変遷比較研究—小学校『美術科』の目標を中心に—」, 『日本美術教育研究論集Vol.39』（査読有）, pp.79-86, 2006

(3) 千凡晋, 「韓国と日本における『美術科』学習指導要領の比較研究—韓国の第 1 次教育課程と日本の昭和 26 年度版学習指導要領を中心として—」, 『美術科教育学会誌Vol.28』（査読有） pp.263~274, 2007

(4) 高橋愛, 千凡晋, 「学習指導要領と研究動向との関連性の変遷—図画工作科学習指導要領と美術教育研究を中心として—」, 『学校教育学研究論集Vol. 16』（査読有）, pp.55~68, 2007

〔学会発表〕（計 5 件）

(1) 奥村高明, 「招待講演「学習指導要領における「感性」と〔共通事項〕の関係」、『INSEA（国際美術教育学会）招待セミナー「美術教育における感性の問題」』, 美術科教育学会, 2008, 大阪国際会議場

(2) 奥村高明, 「学会シンポジウム『新学習指導要領と教員の意識改革』」、美術科教育学会、2008、高知大学

(3) 千凡晋, 「日本と韓国における『美術科学習指導要領』の比較研究—日本の昭和 26 年版と韓国の第一次教育課程を中心として—」, 美術科教育学会, 2006, 京都大学

(4) 千凡晋, 「韓国と日本の毛筆による文字教育の比較研究—学習指導要領を中心に—」, InSEA世界大会, 2008, 大阪

(5) 直江俊雄, Learning by Writing about Artistic Experiences: The Present Situation and Prospects in Senior High Schools, InSEA Asia Regional Congress , 2007, ソウル大学

[図書] (計 1 件)

(1) 奥村高明 「図画工作科・美術科の学習指導要領の教科内容構成の検討」, 西園 芳信編著『教育実践から捉える教員養成のための教科内容学研究』

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

・奥村 高明  
国立教育政策研究所・教育課程研究センター研究開発部・教育課程調査官  
(08413940)

### (2) 研究分担者

・藤江 充  
愛知教育大学・教育学部・教授  
(00106957)

・直江 俊雄  
筑波大学・人間科学部・准教授  
(10272212)

・鑑屋 真理子 (一見 真理子)  
国立教育政策研究所・国際研究協力部・総括研究官  
(20249907)

・村上 尚徳

国立教育政策研究所・教育課程研究センター研究開発部・教育課程調査官  
(10370082)

・新野 貴則  
山梨大学・教育人間科学部・准教授  
(60353380)

### (3) 連携研究者

・劉 東紅  
東京学芸大学連合大学院

・千 凡晋  
東京学芸大学連合大学院

・金 聖淑  
光州教育大學学校・助教授

・銭 初熹  
華東師範大学芸術学院・教授